

- ◆ 2022年12月7日発行ラインナップ
- ・水稲うるち新設銘柄ご紹介
- ・皆さまの安寧を願って～伊勢神宮参拝

水稲うるち新設銘柄ご紹介

令和4年産新規設定銘柄は31登録 「にじのきらめき」が躍進

全国の自治体が奨励している水稲うるち粳及び玄米の産地品種銘柄（東京都除く）は何銘柄あるかご存じでしょうか？実に令和4年は313品種数、道府県において必須銘柄は255、選択銘柄は666と合計921銘柄にのぼっている。昨年と比較すると、新規設定数は31、廃止数は3となっており昨年よりも登録件数が28件伸びた結果となっている。新規設定された銘柄は北から順に青森県「はれわたり」、山形県「ゆうだい21」、茨城県「つきあかり」、栃木県「縁結び」「にじのきらめき」、埼玉県「大粒ダイヤ」、福井県「五百川」「ふくむすめ」、岐阜県「岐系207号」、静岡県「にじのきらめき」、愛知県「あいちのこころ」「にじのきらめき」、三重県「大粒ダイヤ」「にじのきらめき」、滋賀県「亜細亜のかおり」「大粒ダイヤ」「つくばSD1号」、京都府「きぬむすめ」、大阪府「恋の予感」「てんたかく」、和歌山県「にじのきらめき」、鳥取県「あきだわら」、島根県「つきあかり」、岡山県「にじのきらめき」、広島県「いのちの壺」、高知県「たちはるか」「とよめき」、福岡県「とくだわら」、長崎県「恋初めし」、大分県「なつほのか」、宮崎県「ほしじるし」となっている。

令和4年産における主食用米の生産量はコロナ禍の影響で特に業務用筋の米需要が落ち込んだため、本年産は米価下落を抑制すべく主食用米の生産面積を抑えていかなければならない中であつたが、31件もの新設銘柄が登録されているのには驚きだ。その中でも複数県で新設登録された品種は「にじのきらめき」「大粒ダイヤ」「つきあかり」となっている。「大粒ダイヤ」は名前の通り玄米千粒重が28gと大粒の品種で滋賀県の株式会社トオツカ種苗園芸が育成権を持ち、米集荷最大手の株式会社神明が業務用中心に寿司や牛丼などの丼もの用原料向けとして2018年に共同取組を開始している。「にじのきらめき」「つきあかり」は農研機構が開発した品種で「にじのきらめき」は2018年に登録され令和4年までの4年間で7県における検査実績がある。「つきあかり」は2016年の登録後に令和3年までの6年間で14県での検査実績がある。この2品種においてはコロナ禍で米消費が振るわない中でもきら星のごとく作付面積が広がりを見せているようだ。新規設定銘柄として取り上げられるまでには少なくとも3年間はその県において検査実績がないと申請が通らないのが一般的だ。よって、生産者と集荷側双方の思惑が一致しないと作付面積が拡大するまでには至らないはずだ。コシヒカリのように全国ほぼどこでも作付されている超優良品種と肩を並べるようになるのかはさておき、コロナ禍においてこの数年での広がりを見せる品種は優良品種だと言えよう。両銘柄が生産拡大を見せているのには訳があるようだ。「にじのきらめき」を関東地方で栽培した場合、主力栽培品種であるコシヒカリよりも収穫期は3～5日遅いのだが、特長としてはコシヒカリよりも短稈で玄米千粒重は28g程度、反収は10俵近く狙うことができ、おまけに高温障害に強い。コシヒカリよりもやや晩生となるために収穫期においては台風による災害リスクが最大の懸念材料ではあるものの近年、コシヒカリでは出穂期以降の高温がたたり等級落ちに悩まされていた関東以西の生産者にとってみれば作り易い品種となっているため一気に複数県で拡大した所以だ。茨城県では次年度作付け分にあたる「にじのきらめき」の種子は供給不足となっているとの声も聞こえてきており県内での作付人気はうなぎのぼりのようだ。あとは生産側の人気だけではなく「にじのきらめき」が業務用筋や精米品でも消費者に認知されて売れていかない限りは供給過多に陥ってしまう事が懸念される。販売側も地道なPR活動が伴っていないといけなだろう。次に「つきあかり」は「コシヒカリ」より1週間熟期が早く玄米千粒重



(次ページへ続く)

(前ページより続く)

は28g、冷めてもおいしい良食味米であるのが特長だ。ただし、一番作付面積が大きい新潟県産つきあかりはここ数年出穂期において高温に見舞われてしまい乳白米が多く発生した結果、等級を落としている原因となっている。そのため一部のバイヤーからは精米品の見栄えが落ちるため敬遠されてしまったようだが、生産者側の評価では品種の癖さえ掴めば多収が狙えるため主に東北地方での広がりを見せている。王者コシヒカリと比較して食味で対抗でき、且つ生産者メリットとしてはコシヒカリよりも短稈で栽培しやすく多収であること、にじのきらめきにおいては高温耐性等で秀でた特性があるため栽培環境の変化に伴いこのような品種がnext コシヒカリに取って代わっていくのか、新設銘柄の広がりの方が楽しみだ。

皆様の安穩無事を願って～伊勢神宮参拝

今年も残すところ、あと僅かになって参りました。今年はロシア・ウクライナの問題、異常気象に伴う自然災害等、私達が過去に経験したことがない事柄が立て続けに起こった、そんな一年ではなかったでしょうか。先を見通すことが困難な今日において、来年こそは皆様にとって『安穩無事』な一年になりますよう伊勢神宮をお詣りしました。

伊勢神宮は古くから日本人の心のふるさと言われ、「お伊勢さん」の名称で県内外問わず多くの人々に親しまれております。また皇祖(皇室の御祖先の神)である天照大御神が祀られていることから、歴代天皇や内閣総理大臣といった時代の権威者が参詣する格式高い神宮としても有名であります。その昔、伊勢神宮に参詣する事を参宮、またはお伊勢参りといい「一生に一度はお伊勢参り」と言われたほど、古来より人々が憧れを抱く我が国最高の聖地として現代においても全国各地、最近では海外からも多くの人々が参詣に訪れるパワースポットとして君臨しております。このような格式と伝統を兼ね備えた伊勢神宮ですが、単に参詣する以外にも付近には江戸時代の伊勢の街並みを再現した「おかげ横丁」があり、伊勢名物 赤福をはじめ伊勢志摩の海産物店、三重の工芸品店、飲食店が軒を連ね、活気のある人気観光スポットとして楽しむことも出来、一年を通して多くの人々で賑わっております。私は混雑を避ける為に比較的早い時間に訪問しましたが、それでも赤福の店前にはすでに列が出来ており、多くの観光客の方で賑わっていました。前述した赤福についてですが、最近では東海や近畿地方の主要駅や百貨店、空港等で販売されている事を御存じの方も多いかとは思いますが。機会がありましたら是非、現地でご賞味されることをおすすめ致します。店頭で食べる赤福の味は街並みの風情も相まって個人的には大変美味だと確信しております。さて、新型コロナウイルス感染症も全国的に感染者が急増し第8波が到来したと言われております。さらに今冬はインフルエンザの同時流行も危惧されております。肥料業界においてはご承知の通り、過去に類を見ない肥料原料情勢により価格高騰といった状況が続いております。来年こそは、この現状が少しでも落ち着いて欲しいと願ってやみません。そんな折、古来より人々に参詣されてきた最高峰の聖地 伊勢神宮へ足を運んでみてはいかがでしょうか。参詣、訪問に際しては感染症状況を注視し感染症対策をしっかりと取ってご訪問下さい。(大阪支店)

注釈：『安穩無事』とは日常において変事もなく、穏やかで安らかな状況。社会や暮らし等が穏やかな様子を表した言葉です。



日本中がサッカーワールドカップに一喜一憂しましたね。勝てば賞賛、負ければ批判の厳しい世界ですが、素晴らしいチームだと感じました。ブラボー、サムライブルー。次こそは。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>